

様式 3				令和4年度 香南市保育所評価報告書				香南市立赤岡保育所											
経営理念				【保育目標】 自分大好き・友だち大好き・あかおっ子 【経営目標】 保護者とながら、子どもにとって最もふさわしい生活の場としての最善を尽くす保育計画を目指す。 《子ども像》 ○話を聴く、話す力が身についた子ども ○好きなあそびを見つけて集中してあそぶ子ども ○ルールを理解し守る力が身についた子ども ○よりよい人間関係を作る力をもつ子ども ○五感を充分に使い、豊かな感性を身につけた子ども 《保育所像》 ○ 一人一人の子どもを大切にする保育所 ○ 地域を理解し保護者とともに子育てをする保育所 ○ 地域に愛される保育所 ○ 保・小・中・高の連携を大切にする保育所 ○ 子どもの生活日課が確立される保育所 《保育士像》 ○子どもとの信頼関係を大切にする保育士 ○保護者とのよりよい関係を築く保育士 ○専門性の向上に努める保育士 ○チームワークを大切にする保育士															
				短期経営目標 (評価項目)				自己評価 達成状況				保育所関係者評価 考 察				改善策等			
職員の資質向上や運営	い、 協働して保育を遂行する職場環境を作る。	○職員が互いの良さを認め合	① 園内外の研修に積極的に参加する。	・ 今年ブロック別研修園となったことで公開保育を実施するにあたり、学びの機会が多く保障されていることから、一人一人が主体的に研修会に参加し自身のスキル向上に努めた。職員は平均して年5回研修会に参加することができた。5回以下の職員も休憩室に掲示してある協議資料に目を通し学びを確認することができた。 ・ 職員は研修や研究協議で得た知識を積極的に実践に活かし、子どもの姿を通して変化や育ちを実感したり、新たな気づきを得ることができた。又こういった研修の積み重ねにより、より子どもの思いを理解できるよう意識し必要な環境構成や援助に努めることができるようになってきたという振り返りもあり、スキル向上につながった。月案、週案は作成できたが、年間指導計画との突き合わせは十分ではなかった。				B				・ 様々な研修に参加することによって幼児理解が深まっているということなので、継続して質の向上に努めてほしい。 ・ 保育サービスニーズが益々高まると共に、職員の経験値の差も運営に影響している。今以上に仕事への意欲の差が生じないよう研修の有り方を工夫してほしい。				B			
				② 避難訓練を重ね、災害時の判断力、行動力を高める。				A				・ 防災参観日に参加することで、先生方の必死さや緊迫感をもって訓練をしてけていることが伝わってきた。 ・ 海岸に近いということもあり、職員や保護者が他園所よりは危機意識を持って取り組めていると思う。 ・ 今年の評価に甘んじることなく、子どもの命を守る為の訓練を積み重ねてほしい。				A			
保育・教育活動の充実	を する た め の 保 育 者 の 援 助 と 環 境 構 成 を 行 う。	○一人一人の心が満たされ、意欲的に遊びや生活	① 教材研究や保育環境の整備	・ 子どもの発達を理解し一人一人にあった遊具や用具を準備するよう努めたり、職員の中には子どもの発達を促すような遊具や用具を研究し準備する所まで意識して取り組むことができた。継続的な取組により、各年齢なりに子ども自身が遊びを楽しむ材料を求めたり、必要に応じて用具や遊具を選んで使うようになったりと遊びへの意欲が高まった。5歳児の中には自分選で遊びの場を整える姿が見られるようになった。 ・ 保育所アンケートの設問「保育所はお子さんの個性や特性をとらえて、成長を促す為の工夫した関わりができていますか」では【そう思う】が90%であった。 ・ 課題としては教材研究への取組が不十分であった。				B				・ 日頃から保育室や園庭の環境、教材の提供は工夫されている。今後も引き続き子ども達の発達に応じた環境を整えていってほしい。 ・ 室内の環境構成がクラスによって格差があるように思う。なぜ今環境保育が必要なのか、時代にあった子どもの捉え方、育ちを理解し合い、次年度は学びを深めていってほしい。				B			
			② 十分に体を動かして遊ぶ。	・ 年間通して週一回もしくは週一回以上の話し合いの時間を確保し、指導計画を基に子どもが体を動かして遊ぶことができる活動内容や園庭、テラス等の環境の工夫について話し合うことができた。この取組により個人差はあっても、様々な場面で自分でやってみようとする姿が増えたり、体を動かして遊ぶことに消極的であった子どもが、自分から保育者を誘いに来たりすることも多くなった。5歳児は目標に向かい力を合わせて活動し、日々の保育や行事を通して達成感を味わうというねらいを達成することができ、クラスとしての育ちも感じられた。 ・ 保護者には行事を通して育ちを確認してもらったり、日常では掲示してあるドキュメントを使ったりして対話の中で成長を喜ば合うようにした。保育所アンケートの設問「お子さんは園でのびのびと身体を動かして遊ぶ中で多様な動きや体力が身につけていきますか」には【そう思う】が昨年より6%増の92%であった。				A				・ 今年サブテーマとして掲げた「しなやかな体づくり」につながった取組みを職員間で共有し、次年度も継続していく。 ・ 災害発生時、避難するにあたり求められる体力俊敏性・空間認知力等が遊びの中で身につくよう、計画的に取組んでいく。				A			
			③ 直接的な体験や絵本を通して、言葉に対する感覚を豊かにする。	・ 0.1歳児は子どもの心に寄り添い保育者が言葉にして伝えたり、わらべ歌遊びで触れ合いながら心地よいリズムや抑揚で言葉の楽しさが意識できるよう心がけることができた。幼児クラスでは、話したい思いを理解しながらじっくり聞くように心がけたり、不適切な言葉や言い間違いをした時に否定するのではなく、保育者が正しい言葉を発するように努めていった。この取組により、5歳児は情動のコントロールができるようになると共に自分の考えや思い、状況説明を適切な言葉を使って表現することができるようになったり、表現の仕方に幅が出てくるようになった。 ・ 担任としては、クラスの70%以上の子どもが「発達段階に応じて日常生活に必要な言葉がわかり、状況に応じた適切な言葉を使うことができるようになった」と捉えている。				B				・ 乳児は特に声のトーンや周りの子どもを意識できるような基本をつくる言葉がけや心がけてほしい。 ・ 子ども達の言葉の使い方は小学校でも課題である。身近な大人が子ども達のモデルとなることを意識して今後も取り組んでほしい。				B			
信頼される保育所	力 実 に 努 め る。	○地 域 の 関 係 機 関 と 連 携 及 び 充 協	① 遊びのなかの学びが伝わるドキュメント作成	・ 保育所アンケートの設問「職員同士が連携を取り合い全職員で子ども達を見守る体制になっていると思いますか」に対して【思わない】が1%であった。又「職員に日頃の悩みや困ったこと等を話せますか」には【あまり思わない】が3%であった。小さな行き違いや不信感が積み重なったり、園側は解決したと思っていてもそうでない場合もあったりすることを踏まえ常に誠実な対応が必要であると職員間で確認し合った。 ・ 職員による自己評価はクラスの70%以上の家庭は「保護者が子育ての中で感じる喜びや不安や悩みをよく話してくれるようになる」と捉えている。				B				・ 職員同士が連携を取り合い全職員で子ども達を見守る体制になっていると思わない。という評価は心が痛い。 ・ 登所時間の遅い保護者が時々見受けられる。子どもにとつての、より良い育児に向き合える意識がもてるように、マイナーなことをうまく伝えていく工夫をしてほしい。				B			
			② 全職員が、チーム赤岡の意識を持ち、保護者支援にあたる。	・ 保育所アンケートの設問「日々の生活の中で子育ての楽しさや子どもの成長の喜びを感じることができていますか」には【そう思う】91%【ややそう思う】9%という高評価であった。 ・ 家庭との連携を踏まえた支援の充実に向けての取組として「日動とパート職員とで子どもの健康状態を含めた日中の様子を引き継ぐ時間を確保する」という項目を入れていた。そこを意識して情報共有に積極的に努めた職員もいたが、時間の確保の工夫ができず、引継ぎ内容が十分でない日もあったと振り返った職員もいた。 ・ 全職員が守秘義務の徹底を図りながら各クラス月一回担任、家庭支援推進保育士、管理職でのケース会を実施すること、朝の視診等で子どもや保護者の変化に気付いた時には素早く職員間で情報を共有し、対応の検討を行うことはできた。				B				・ 今年の取組結果から今後の課題が見えてきているので、そこを意識して組織で取組んでいってほしい。				B			
【 評価基準 A：90%以上(十分満足) B：70~90%(おおむね満足) C：50~70%(もう少し努力すべき) D：50%以下(大いに努力が必要)																			